

自作ウッドパネル作成記録

1, はじめに

当作成記録は、当方が自分の所有する私物（自動車内装パネル、CD等）をウッド調に塗った記録であり、他の人が同様に個人で作成されたものを補償するものではありません。
当記録に沿って同様に作成されるのは自由ですが、塗装した物や塗装によって生じる障害（CD塗装によるデッキの故障等）はあくまで**個人の責任において**行っていただけますようお願いします。

また、当記録によるウッド調の塗装はあくまで自作記録であり、プロの塗装と比べると模様やクオリティで劣りますのでその点はご了承ください。

以上の点をご理解いただいた上で当記録をお読みになっていただけますようお願いいたします。

2, ウッド色の種類



当作成記録に記載している作成色は以下の6種類です。

- A: ライトオークウッド
- B: イエローウッド
- C: ライトマホガニーウッド
- D: マホガニーウッド
- E: ダークウッド
- F: ブラックウッド

以下の記録は各色を上記記号(A~F)にて記載しています。

3, 準備するもの



シリコンオフ（塗装面の油分を除去するもの・無くてもよいがあったら便利：1本1000円程度）

サフェーサー（下塗り剤・白、グレー両方可：1本1000円程度）

色スプレー（油性・ホームセンター等で300円程度のものでOK：1本300円程度）

A・F作成時は白色、B・C・D・E作成時は黄色のスプレーを用意してください。

色ニススプレー（油性・色々ありますがアサヒペン製がお勧め：1本1000円程度）

A・B作成時はライトオーク、C・D作成時はマホガニー、E作成時はマホガニーとダークオークの2本、F作成時はダークオークのニススプレーを用意してください。

アサヒペン製のものが色が多少薄く、重ね塗り時にムラが出来にくいです。

ホームセンターにアサヒペン製がない場合は楽天等でネット販売もあります。

ニススプレーのクリア（油性・色々ありますがアサヒペン製がお勧め：1本1000円程度）

研磨用コンパウンド（仕上げ用と超鏡面用の2種類：1本500～1000円程度）

水抜き剤（ガソリン用：1本200円程度）

ホワイトボードクリーナー（他にO Aクリーナー等の界面活性剤が入ったものならなんでもOK：100円ショップにあり）

水性塗料（油性は不可・小さい缶でOK：1缶500円程度）

A・B・C等の明るい色の場合は茶色やこげ茶色等（当記録は茶色を使用・もっと濃い木目が好みの場合はこげ茶色等を使用）、D・E・F等の濃い色の場合は黒色を用意してください。

計量カップ（木目塗料混合時に使用：100円ショップにあり）

計量スプーン（木目塗料混合時に使用：100円ショップにあり）

薄手ゴム手袋（無くてもよいがあったら便利：100円ショップにあり）

洗車スポンジ（目が粗いもの・木目模様塗布時に使用：1個100円程度）

化粧ボトル（木目塗料調合後に入れておく入れ物：100円ショップにあり）

小皿（何かの容器の蓋等でOK・木目塗料塗布時に使用）

マスキングテープ（塗装したくない部分があれば必要に応じて：1本100円程度）

カッターナイフ（マスキングテープを剥がす際に使用）

雑巾（シリコンオフ塗布時・コンパウンド研磨時等に使用）

新聞紙（必要に応じて下に敷いたりマスキング時に使用）

ペーパー 800・1000・1500番程度、その他必要に応じて320・600番位の荒目（1枚100円程度）

4, 作成手順

塗装するパーツを取り外します。



塗装しない部分やネジ、ピンなどの部分をマスキングします。



表面を800番程度のペーパーで磨きます。（塗装の足付け用）

この工程をしっかりと行かないと、完成後に塗装が剥がれやすくなりますので、**最初から表面がつるつるの場合でも必ずしっかりと行ってください。**

この時、表面がざらざらもしくは模様が入っている場合は、表面に凹凸がなくなるまで荒目のペーパーからだんだんと細目のペーパーへ変えながら磨きます。
表面に凹凸が残っていると、完成時にその凹凸が残ります。



必要に応じてシリコンオフで塗装面の油分を取り除きます。

サフェーサーを塗ります。（塗装ののりが良くなるための下地処理）

一度に厚塗りしないで薄く何回か重ね塗りしてください。

もし厚塗りしてたれた場合は、十分に乾燥後にたれた部分をペーパーで削り取ってください。



色スプレーを塗ります。

A: ライトオークウッド・F: ブラックウッドの場合

サフェーサーが完全に乾いたら白色のスプレーで塗装します。

B: イエローウッド・C: ライトマホガニーウッド・D: マホガニーウッド・E: ダークウッドの場合

サフェーサーが完全に乾いたら黄色のスプレーで塗装します。

一度に厚塗りしないで薄く何回か重ね塗りしてください。

もし厚塗りしてたれた場合は、十分に乾燥後にたれた部分をペーパーで削り取ってください。



白色（黄色）の塗装が完全に乾いたら、再度1500番程度のペーパーで表面を磨きます。

水にぬらした時、水が大体弾かなくなる程度でOKです。あまり磨きすぎると白色（黄色）が剥がれてしまいますので注意してください。

水が弾く状態のままですと、以降の木目塗料ののりが悪くなり、いい木目が出ませんので注意してください。



木目塗料を作ります。

水抜き剤(ガソリン用)、ホワイトボードクリーナー(界面活性剤入りの液体)、水性塗料を用意します。

A:ライトオークウッド・B:イエローウッド・C:ライトマホガニーウッドの場合、水性塗料の色は茶色やチョコレート色(木目模様を薄くする場合)、もしくはこげ茶色(木目模様を濃くする場合)を用意してください。

D:マホガニーウッド・E:ダークウッド・F:ブラックウッドの場合、水性塗料の色は黒色を用意してください。



木目塗料を調合します。

まず、水抜き剤とホワイトボードクリーナーを同分量混ぜ合わせます。(左写真の場合、水抜き剤25cc、ホワイトボードクリーナー25ccを計量カップに出しています。)

次に上記混合液に対して、混合液10：水性塗料1の割合で水性塗料を混ぜ合わせます。(左写真の場合、上記混合液が計50ccなので、水性塗料を計量スプーンで5cc混ぜ合わせています。)

調合の割合が多少変わってもあまり問題ありません。

調合したあとはよく混ぜ合わせてください。

実際に使用する量は50ccあればかなりの範囲が塗れますので、作り過ぎに注意してください。



調合した木目塗料を別の容器に移しかえておきます。

移しかえておかずにそのままにしておきますと、**液体内のアルコール分が蒸発して液体が濃くなったり木目模様がうまく出なくなったりします**ので、必ず移しかえておいて下さい。



木目塗料で木目模様をつけます。

まず、先ほど調合した木目塗料を**十分に振って**混ぜてください。

それから木目塗料を小さな容器に出してください。この時、一度にたくさん出すのではなく、少しずつ数回に分けて出してください。

一度に大量に出すと液内に含まれているアルコール分が蒸発して、塗料色が濃くなったり木目がうまく出なくなります。



次に、スポンジを手でちぎり、木目塗料を**少量**つけてポンポンと叩くように描いて下さい。

左図のように、1回目はすき間ができる感じで大ざっぱに塗って、それが乾燥したらすき間を埋めるような感じで2回目を塗ってください。

明るいウッドを作成する場合は2回塗り程度で木目を薄く、濃い(暗い)ウッドを作成する場合は更に1～2回重ね塗りして木目を多少濃く描いてください。

(当記録の場合、A・B・D・Fが2回塗り程度、C・Eが3回塗りしています。)

所々濃い場所を作るといい感じになります。

木目塗料の特性上少しにじみができると思いますが、そのにじみが自然な木目になります。



重ね塗りする時は、前に塗ったものが乾燥してから重ね塗りするようにしてください。

一度に多量に塗ると、塗った時はいい感じに見えても塗料が乾くまでに木目が流れて模様が消えてしまうので注意して下さい。

塗る物が縦の場合は特に流れやすいので、乾燥するまで上下左右に回しながら乾燥させると木目模様が流れにくいです。

完全に乾かします。

十分に乾燥していないと、この後の塗装がひび割れます。



色ニススプレーを塗ります
一度に厚塗りしないで25cm位離しながら薄く何回か重ね塗りしてください。
重ね塗りの時、前に塗ったのが乾いてから塗り重ねてください。

A: ライトオークウッド・B: イエローウッドの場合

ニススプレーのライトオークを塗ります。

塗り重ね回数が少ないとベース色(白・黄色)が強くなり、塗り重ねる毎にオーク色が強くなっていきますので、お好みの濃さ(色)まで数回塗り重ねてください。



C: ライトマホガニーウッドの場合

ニススプレーのマホガニーを薄く塗ります。

なるべくスプレーを離して、かなり薄く塗り重ねるのがコツです。

ライトマホガニーウッドの場合、あまり塗り重ね過ぎると濃いマホガニーウッドになり、木目も目立たなくなってしまうのでご注意ください。(2～3回の重ね塗りがベストです。)



D: マホガニーウッドの場合

ニススプレーのマホガニーを塗ります。

お好みの濃さまで数回塗り重ねてください。



E: ダークウッドの場合

まずニススプレーのマホガニーを塗ります。

上記マホガニーウッド程度の濃さまで数回塗り重ねてください。

次に、ニススプレーのダークオークを塗ります。

お好みの濃さ(暗さ)まで数回塗り重ねてください。

ダークオークを塗った後に再度マホガニーを塗っても構いませんが、塗れば塗るほど色が濃くなっていきますのでその点ご注意ください。



F: ブラックウッドの場合

ニススプレーのダークオークを塗ります。

お好みの濃さまで数回塗り重ねてください。

工程での注意点

一度に厚塗りしたり、近くから吹き付けすると塗料がたれたり、色ムラができて取り返しがつかなくなります！

もし塗料がたれた場合は、たれた状態でしっかり(1～2日)乾燥させて、ペーパーでたれた部分を磨いた後に再度塗ってください。

塗装時に部分的に弾いて“点”ができた時は、そのまま十分乾かしてペーパーで表面を磨いた後に再度塗り重ねてください。

塗装の際、曲面や奥まった面などは、下に置いて塗装するより軍手などをはめて塗装しない場所(マスキング部)を持ってから塗装すると、均一にムラなく塗装できます。

曲面や奥まった面がある場合は塗りムラがしやすい(特にライトマホガニーウッドの場合)ので、塗装が届きにくいところを先に少しずつ塗り重ねてから平面部を塗るとムラなくきれいに塗れます。

の工程で大きく失敗して再度サフェーサーからやり直すような事態が起こった場合、白色(黄色)の面が出てくるまでペーパー等で削り取ってから再塗装してください。
ライトオーク(マホガニー)の上からサフェーサーや白色(黄色)を塗った場合、特に薄く重ね塗りしない限り下地がひび割れて更に取り返しのつかない事になる可能性があります。



色ニススプレーが乾いたらニススプレーのクリアを塗ります。
 この次の工程で表面をペーパーで磨くため、多少厚めに塗っておいた方がいいです。
 ただし、一度に厚塗りしないで25cm位離しながら薄く何回か重ね塗りしてください。
 重ね塗りの時、前に塗ったのが乾いてから塗り重ねてください。
一度に厚塗りしたり、近くから吹き付けると塗料がたれてしまいます！
 もし塗料がたれた場合は、たれた状態でしっかり（１～２日）乾燥させて、ペーパーでたれた部分を磨いた後に再度塗ってください。
塗装の慣れた方は、最後の塗装の時に少々厚め(たれない程度の厚さ)に塗装して表面を平らにしておくと、この後のペーパーがけが多少楽になります。



クリアが完全に乾いたら（２～３日程度）表面を1000番程度のペーパーで磨きます。
 表面の凹凸がなくなる程度まで磨いてください。
磨きすぎると塗った塗料が剥けてしまいますので、クリア塗装の範囲内で磨いてください。



仕上げ用コンパウンドで磨きます。

超鏡面用コンパウンドで磨きます。
 磨けば磨くほどつやが出ます。



マスキングテープを剥がす前に、塗装面とマスキング部の境目にカッター等で切り目を入れておきます。
そのままマスキングテープを剥がすと、せっかく塗った塗装まで一緒に剥がれる場合がありますので注意してください。



貼っていたマスキングテープ等を剥がして完成です！
 お好みでWAX等を塗られると更に艶が出ます。

5、注意事項

塗装する物はプラスチック・鉄等、大体の素材のものはOKですが、柔らかい素材は曲げた時に塗装が割れることがありますし、ガラスは下地処理ができないため塗装が剥がれますのでお勧めできません。

缶スプレー塗装のコツは別途参考資料に詳しく書いてありますので参考にして下さい。

表裏の塗装が必要な物を塗装する際は、マスキング時に厚紙や割り箸等で取っ手やスタンドを作成してから塗装して下さい。

自信のない方は、何か他の物で試してから塗装することをお勧めします。

ニススプレーはウレタン性で内部の乾きが遅いため、1週間くらいしっかり乾燥させると強く丈夫な被膜になります。完全に乾燥するまで塗った物の取り扱いには注意してください。

あせらずじっくりと時間をかけて作業するのがうまくやるコツです。

作業は換気の良い場所で行ってください。

**当記録の著作権は当方にあり、これを個人の利用目的以外の目的に使用する（無断転用・複写等）ことは堅くお断りいたします。
もし不正利用を発見した場合は然るべき法的手段をとらせていただく場合があります。**

*** 缶スプレー塗装のコツ ***



塗装する缶スプレーをお湯で温めます。
暖かい日は別にしなくても良いのですが、温めることによってかなりキリが細くなり、仕上がりにムラがなくなり良い感じに仕上がります。

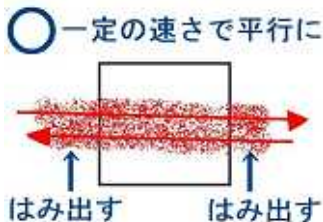
缶スプレーは100度ぐらいで爆発しますので、熱湯は避けてください。



よく振って(最低30秒程度)、中の塗料を混ぜてください。
よく混ぜないと塗料の目が粗くなったり、色ムラが出る場合があります。



塗る距離ですが、塗装するものから20~30cm程離して塗ってください。
近すぎると塗る範囲が狭くなり厚く塗りすぎてしまうために泡やタレ、色ムラの原因になります。
逆に遠すぎると失敗はしませんが、逆に塗料が薄すぎていつまでたっても塗れません。
ライトマホガニーウッドのニススプレー(マホガニー)を塗る場合は、多少遠く気味から塗った方がうまく塗れます。クリア塗装は通常どおりの距離で塗ってください。



塗り方ですが、上記の距離を保ったまま、塗装する面に平行に一定の速さで塗ってください。
塗る速さは、遅すぎるとタレやムラの原因になりますのである程度早い方がいいです。
左右に素早く同じスピードで往復させ、スムーズに噴き付けてください。
また、往復する際は塗装面を多少重ねるように塗ってください。



この時、塗装する物よりはみ出した状態からスプレーを押し、反対側もはみ出した状態まで離さないで下さい。
スプレーの押しはじめや離れた時は塗料の出る量が一定ではないため、ムラの原因になります。
あと、往復する際に塗装するものの途中で引き返さないで下さい。

上記の塗り方で全面を塗り、1回毎に乾燥させてから同様の方法で数回塗り重ねてください。
最初は色がうっすらついたくらい状態で、次からも同じくらいの厚さで塗り重ねてください。
早く色を付けようとあせって塗るとたれる原因になりますので、必ず薄く塗り重ねてください。

もううまくいかず塗料がたれてしまった場合は、あせらずたれたところで塗装を一旦中止して、たれた部分が内部まで十分に乾くまで待ってください。
その後ペーパーで凹凸部分を平らになるまで削ってから再度塗装してください。

クリア塗装時(最終仕上げ厚塗り塗装時)の注意点ですが、以下の事に気をつけて吹かないと塗装内部に細かい気泡のようなものが閉じ込められてしまうことがあります。

その場合、仕上げの研磨時に内部の気泡(空洞)が表面に出てきてしまって、そこにコンパウンド等が入り込み白っぽくなってしまいます可能性がありますので十分気をつけてください。

- ・湿気の多いところでの塗装は塗装内に霧のような細かい粒子が入り込む場合があります。
- ・塗装物の上でスプレーを押し始めたり離れた時は缶スプレー内のガス?!が塗装内に閉じ込められてしまう場合があります。(厚塗りの場合は特に)

基本的に塗装を厚塗りすると、内部に細かい気泡が閉じ込められる可能性が高くなりますので、仕上げのクリア厚塗りの際は慎重に塗装して下さい。

もううまくいかず白っぽくなった場合は、一度そのクリア部分を削り取って再塗装して下さい。ただし、削り取る際に下に塗った色ニスまで削り落としてしまわないように注意が必要です。

全体的な注意点を以下に列挙します。

- ・作業はできる限り穏やかな日を選び作業してください。

風が強い日はスプレーの霧が散りますし、雨天や湿気の多い日は塗装面が白くボケることがあります。また、炎天下や極端に寒い日はできるだけ避けた方が無難です。

- ・スプレーの霧は思っている以上に広範囲に散ります。

周辺の物にも塗装が飛んで色がつく場合がありますので注意してください。必要に応じて、周囲のものにもマスキング等の処理をして下さい。

- ・スプレーの出口は塗装の区切りごとに、常にきれいにしておいて下さい。

出口に塗料がついたまま放っておくと目詰まりしてきれいなキリが出ません。

また、缶スプレーをひっくり返して空吹きすると中の余分な塗料も除けて詰まりにくいですが、

- ・塗装の前に、あらかじめ目立たない部分で試し塗りすることをお勧めします。